

自働郵便切手葉書売下機



前面を開いて内部を見る

明治37(1904)年、山口県の発明家、俵谷高七が「自働郵便切手葉書売下機」を完成させましたが、装置作動の正確さにやや難点があり、実際には使用されませんでした。

この販売機は日本に現存する最も古い自動販売機といわれています。国産の切手の自動販売機は昭和13(1938)年に実用化されました。



俵谷高七が完成させた「自働郵便切手葉書売下機」は、向かって右側が3銭切手の販売口、左側が1銭5厘のはがきの販売口となっており、中央下部にはポストもつけられています。

はがきは1銭5厘で1枚、3銭入れると2枚出てくるようになっていました。また、在庫がなくなると売切れの表示もできるように作られています。

通信省では、この販売機を当時の350円というかなりの高額で買い上げましたが、装置作動の正確さにやや難点があり、実際には使用されませんでした。しかし、今日使用されている自動販売機の原理と全く同じであるということで高く評価されています。

俵谷高七(たわらや たかしち)年譜

- 安政元(1854)年 3月21日島根県に生まれる。
その後赤間関(現在の下関市)に移り、
郵便局の用品製作に携わる。
- 明治21(1888)年 「木製煙草自動販売機」を製作、
明治23年東京勸業博覧会に出品し
好評を博する。
- 明治34(1901)年 10月21日に「俵谷式柱箱」
(最初の赤い鉄製の円形ポスト・写真)を
日本橋の北側に設置する。
- 明治37(1904)年 「自働郵便切手葉書売下機」を完成させる。
- 明治40(1907)年 「俵谷式自転機」(抽せん機)を作る。
- 明治43(1910)年 「俵谷式郵便葉書自動売捌器」を作製する。
- 大正元(1912)年 9月2日、東京市赤坂区霊南坂町(現在の赤坂、六本木)
にて没す。享年58歳。



俵谷高七



俵谷式柱箱